

平成22年5月31日現在

研究種目： 基盤研究 (B)
 研究期間： 2006～2009
 課題番号： 18402033
 研究課題名 (和文) 国際移民の比較制度分析—日伯間の移民制度の変容とコミュニティ

研究課題名 (英文) Comparative Institutional Analysis of International Migration Systems

研究代表者
 丹野 清人 (TANNO KIYOTO)
 首都大学東京・人文科学研究科・准教授
 研究者番号：90347253

研究成果の概要 (和文) : 本研究は、研究代表者が長年進めてきた国際移民・国際労働力移動と近年取り組んでいる比較制度分析研究の結節点で、経済のグローバル化に共進行する移民制度の変容と国内政治との関連を研究した。モノ・カネ・ヒトが国境を越えるグローバル時代の成立と、そのもとで進行する労働者階級の移動・越境に注目し、既存の概念の変容と新しい課題を実証的な国際比較と制度連関から考察した。

研究成果の概要 (英文) : This research focused on the international migration systems which bring Brazilian workers to Japan and the globalization of international politics, at the cross of the long studies of institutional theory. It treated the transformation of goods, money and individuals as the formation of global age under the cross border of people. We need the reexamination of principle concepts of international migrant study, nation state, civil society and public sphere in comparative and institutional perspectives.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	4,500,000	990,000	5,490,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード： (1)越境システム, (2)外国人労働者, (3)比較制度分析, (4)労働力輸出機構, (5)労働市場, (6)移民

1. 研究開始当初の背景

本研究は、1990年代のラテンアメリカと日本との労働力移動の問題を世に問うた梶田孝道・丹野清人・樋口直人、2005、『顔の

見えない定住化』名古屋大学出版会で得られた知見を、2000年代に入った新しいグローバル化の状況において、何が違って、何が変わらないものであるのかを探求しようとし

て企画した研究である。研究代表者が注目したのは、ラテンアメリカで日本へデカセギ就労に行く者を集めている日系旅行社であった。

申請が日系旅行社に注目したのは、デカセギ労働者個人個人が、日本へのデカセギを繰り返すことによって、デカセギ就労の目的や生活態度を変えてきたことは多くの研究で明らかにされていたが、旅行社は数多くのデカセギ者につきあうことから、デカセギ者全体がどのように変化しているのかについての鳥瞰図をそれぞれの業者がもっていることが予想され、多くの変化するデカセギ者と接点をもっている日系旅行社自体が全体の変化に合わせて営業形態を変化させていると想定できたからであった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、研究代表者が長年進めてきた国際労働力移動研究と、近年取り組んでいる比較制度分析の結節点に位置する。

(2) 経済のグローバル化と共進行する移民制度の変容と、外国人に対する政治や国民である日本人との線引きをめぐる国内政治、がどのように再定義されるのかを研究する。

(3) とりわけ越境と労働市場の脱国家化の動きに注目して、「国籍」「労働者」「国民」「外国人」等の既存の概念がどのような変容をこうむり、どのような新しい課題を生み出すか、どのような新しい枠組みと発想・方法・概念を必要とするかを、実証的に考察した。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、比較制度分析、とりわけ歴史的制度論の方法を活用する。

(2) 研究代表者が本研究を実施中に、リーマン・ショックによる世界金融・経済恐慌も経

験し、その後の世界同時不況はその前と後でラテンアメリカでの労働力募集の仕組みに大きな変化をもたらし、比較制度分析は極めて有効に機能することになった。

(3) ラテンアメリカ現地におけるリクルーティングシステムとしての日系旅行社だけでなく、日本就労帰還者が不動産等を買う際に利用される日系不動産会社との連携を調べることで、資金を稼ぐ場所としての日本と稼いだ資金を投資する場所としてのラテンアメリカの関係を吟味することにより、デカセギによる資本蓄積の一端を明らかにしようとした。

4. 研究成果

旅行会社の変容については、丹野清人、2006、「総合デカセギ業の誕生」『大原社会問題研究所雑誌』573号において、先ず日系旅行社の老舗と呼ばれる大手2社（この2社がこれまでの日本就労のビジネスモデルを作ってきた）の1982年から1983年の営業開始期から2005年までの変化を、比較制度分析を用いて分析することで、日系人労働者の労働市場の変容を理解できることをモデルとして先ず提示した。この論文は、筆者の単著である『越境する雇用システムと外国人労働者』（2007）東京大学出版会に、リライトして採録した。

研究代表者は本研究期間中に、ブラジル国サンパウロ州サンパウロ市、モジダスクルーゼス市、スザーノ市、サントス市、同国パラナ州クリチバ市、イグアス市、ロンドリーナ市、マッドグロソスル州カンポグランジ市、アルゼンチン国ミシオネス州プエルトイグアス市に所在する日系旅行社97社に聞き取り調査を行い、現地における旅行業の盛衰と経営形態の変化をつぶさに聞き歩いた。また、ブラジル国サンパウロ州サンパウロ市、モジ

ダスクルーゼス市、スザーノ市では、日系不動産8社にも聞き取り調査を行い、デカセギ就労が始まってから現在に至る日本就労者の不動産投資状況と日本就労者の不動産投資によって地域の不動産市場がどのように変化したのかを聞き取ってきた。

調査期間中にリーマンショックがおき、その後世界同時不況に入ることになって日系人労働者のリクルーティングにも大きな変化が始まった。研究代表者はいち早くこの変化に気づいていたこともあって、丹野清人、2009「完成雇用不安と外国人労働者」『寄せ場』22号および丹野清人、2009、「外国人労働者問題の根源はどこにあるのか」『日本労働研究雑誌』587号に発表し、日本の工場の需要がどのような変化を引き起こしているのかを明らかにした。この世界同時不況下における日系人の問題については、2010年夏に公刊される Japan Labor Review において Economic Crisis and Foreign Workers in Japan のタイトルのもと英文論文としても公刊される。

総合デカセギ業の既に言及した 2006 年論文に発表した以後の変化については、丹野清人、2009、「総合デカセギ業に包み込まれるブラジル人の労働市場」『都市問題』100巻3号において、これまでのブラジル内でのデカセギ帰還者に対するサービス業から、日本に滞在する滞日世帯への教育サービス、住宅ローンサービス、保険サービスと多岐にわたる生活産業へと転換し始めていることを明らかにし、デカセギの構造化がさらに進んでいることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

① 丹野清人、外国人労働者問題の根源はどこにあるのか、労働政策研究・研修機構『日本労働研究雑誌』査読有、587号、2009、27-35。

② 丹野清人、官製雇用不安と外国人労働者、寄せ場学会『寄せ場』査読有、22号、2009、36-52。

③ 丹野清人、総合デカセギ業が包み込むブラジル人の労働市場、東京市政調査会『都市問題』査読無、100巻3号、2009、60-67。

④ 丹野清人、日本の外国人労働問題、経済産業省エネルギー総合推進委員会『エネルギー問題研究所資料』査読無、39号、2009、1-40。

⑤ 丹野清人、「『部品』扱いされる外国人ハケン労働者」『リプレーザ』、査読無、第6号、2008、30-38頁。

⑥ 丹野清人、「越境する雇用システム」『オルタ』査読無し、第396号、2008、15-18頁。

⑦ 丹野清人、在留特別許可の法社会学／日本で暮らす外国人の法的基礎『大原社会問題研究所雑誌』査読有、582号、2007、1-40。

⑧ 丹野清人、「総合デカセギ業の誕生」丹野清人、『大原社会問題研究所雑誌』査読有、第573号、2006、39-60頁。

⑨ 丹野清人、「外国人住民と自治体」丹野清人、『国際文化研修』査読無、第14巻2号、2006、44-49頁。

[学会発表] (計3件)

① 寄せば学会、2009年5月23日、丹野清人、非正規切りと世界同時不況、於：明治学院大学。

② 貧困研究会、2009年4月23日、丹野清人、外国人労働者の就労問題、於：日本大学経済学部。

③ アジア移民研究会、2009年1月24日、丹野清人、総合デカセギ業に包み込まれるブラジル人の労働市場、於：慶応大学法学部。

〔図書〕（計5件）

- ① 丹野清人、「動揺する国民国家を抑える」
加藤哲郎・小野一・田中ひかる・堀江孝司
編『国民国家の境界』、日本経済評論社、
2010、59-74頁。
- ② 丹野清人（共立総合研究所と共編）、国際
的な人材活用：外国人労働者受け入れガイ
ドブック、共立総合研究所2009、1-40
- ③ 丹野清人、「都市の外国人と政策課題」、
中牧弘充・佐々木雅幸・総合研究開発機構
編『価値を創る都市へ』NTT出版、2008、
198-243頁。
- ④ 丹野清人（単著）、越境する雇用システム
と外国人労働者、東京大学出版会、2007、
1-328
- ⑤ 樋口直人・稲葉奈々子・丹野清人・岡井
宏文・福田友子著、国境を越える／滞日ム
スリム移民の社会学、青弓社、2007、278
頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丹野 清人 (TANNO KIYOTO)
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：90347253